

# TAKAHAMA Toshiya Collecting Houses in Meguro

Where will the rolling stone eventually end up?

転石のやがていづくかに流れるか

高浜利也  
目黒でいえあつめ

目黒区美術館

2026.6.27. sat - 8.30. sun

10:00 - 18:00 (入館は17:30まで)

月曜休館 (7月20日は開館 / 7月21日は休館)

一般 900 (700)円、大高生・65歳以上 700 (550)円、中学生以下無料  
\*障がいのある方とその付添者1名は無料、( )内は20名以上の団体料金  
\*目黒区在住、在勤、在学の方は受付で証明書類をご提示いただくと団体料金になります  
(他の割引との併用はできません)

主催：(公財)目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館  
協賛：(公財)北野生涯教育振興会

「落石計画第1期 ワークショップ Community on the move / 落石」2008年

  
Meguro  
Museum of  
Art, Tokyo  
目黒区美術館

# TAKAHAMA Toshiya Collecting Houses in Meguro



この度は、「いえあつめ」をコンセプトに制作する銅版画家・高浜利也による展覧会を開催します。

高浜は美術大学を出た後、銅版画制作と並行して、造作大工の仕事をしていました。当初、生活のためと割り切っていた大工の仕事で扱う図面の矩形や直線が、次第に自身の版画の構成要素となっていき、やがて高浜は「いえ」をテーマに制作するようになりました。そんな折、2006年の越後妻有アートトリエンナーレで、高浜は井出創太郎とともに空家プロジェクト《小出の家》を発表します。その際に、この場所で地元の子どもたちが自然と残材で積み木遊びを始め、「まち」を作りました。これを契機に高浜は、国内外での自身の展覧会やワークショップで、積み木の「まちなみ」を作る取り組みを開始します。かつての場所で調達したその土地由来の木っ端に、新たな土地のものを加えながら、移動した先々の人々の手で、新たな「いえづくり」が行われ、「まちなみ」を上書きしていきます。このワークショップは、2009年春に当館においても実施されました。様々な土地へ赴きながらその土地で出会った人々と「いえ」を作ることも、「いえ」をモチーフに銅版画を制作することも、高浜にとってはその全てが「いえあつめ」の行為であるといえます。社会と深く関わる高浜の「いえあつめ」という制作スタイルは、「版画は社会を刷り取る」と語る自身の理念のあらわれともなっています。

会場には、高浜の初期から新作までの銅版画作品とともに、目黒区立下目黒小学校の授業の一環として、高浜が児童たちと制作した積み木の「まち」が広がります。あわせて児童たちによる「いえ」や「まち」をテーマにした版画も展示されます。

「転石のやがていづくに流れるか」—これは、転石のように移動し、回転するたびに版画を刷る銅版画プレス機のローラーのように、行く先々でその地域の様々な人々を巻き込み、「いえあつめ」をする高浜自身を表した言葉です。本展覧会中には、近年高浜が自身の活動の中核とする、北海道根室市落石でのアートプロジェクト「落石計画」が開催されます。その時期、高浜は目黒から落石に流れ、そしてまた目黒に戻ってきます。転石の来し方行く末、高浜の制作の軌跡を、ぜひご覧ください。

転石のやがていづくに流れるか  
Where will the rolling stone eventually end up?



## 展覧会の見どころ

- 版画による本の作品《Black Diary》を、会場で手に取ってページをめくってご覧いただけるなど、参加型の展覧会です。
- 来館者が触れて傷んだ《Black Diary》は、高浜利也の来館日には、会場内の「繕う」ための工房のスペースで、高浜自身が補修作業をしているところをご覧いただけます。



1. 高浜利也《Black Diary》  
2020年頃～現在、版画本、作家蔵

高浜利也  
目黒でいえあつめ





2. 高浜利也《House in Shanghai-1》  
2008年、エッチング、アクアチント  
ドライポイント・紙に油性インク  
作家蔵



3. 高浜利也《Community on the move / Railway 5》  
2011年、エッチング、アクアチント・紙に油性インク  
作家蔵



4. 「落石計画第1期ワークショップ  
Community on the move / 落石」  
2008年



5. 高浜利也個展《Black Diary》  
ギャラリーなつか（2025年）での展示風景



6. 高浜利也《振れるまなざしより / b)》  
1992年、エッチング、アクアチント・紙に油性インク  
町田市立国際版画美術館

#### 広報用画像

本リリース掲載(p.2~3)の図版1~6を本展広報用画像としてご提供いたします。ご希望の方は、申込用紙(p.5)の内容をご確認の上、必要事項をご記入いただき、FAXでお申込みいただくか、同内容を本展担当者宛メールにてお申し込みください。

## 開催情報

タイトル	高浜利也 目黒でいえあつめ
会期	2026年6月27日(土)－8月30日(日)
会場	目黒区美術館 (東京都目黒区目黒 2-4-36)
開館時間	10:00－18:00 (入館は17:30まで)
休館日	月曜日 [ただし、7月20日(月・祝)は開館/7月21日(火)は休館]
観覧料	一般 900(700)円、大高生・65歳以上 700(550)円、中学生以下無料 ※障がいのある方とその付添者1名は無料、()内は20名以上の団体料金 ※目黒区在住、在勤、在学の方は受付で証明書類をご提示いただくと団体料金になります (他の割引と併用はできません)
主催	公益財団法人 目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館
協賛	公益財団法人 北野生涯教育振興会
交通機関	JR 山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・都営三田線 「目黒」駅(西口)から徒歩 10分 東急東横線・東京メトロ日比谷線 「中目黒」駅から徒歩 20分 東急バス 「権之助坂」(目黒通り)下車徒歩 5分、「田道小学校入口」(山手通り)下車徒歩 3分

## 関連催事

## ●アーティストトーク

本展出品作家である高浜利也が、自作について語ります。

日時：7月5日(日) 14:00－15:00

場所：目黒区美術館 1階ワークショップ室、展示室

参加方法、定員：当日先着順(20名程度)

## ●オンライン中継によるトークイベント

「落石計画ギャラリートーク：無線局における繕<sup>つくろ</sup>いの作法について」

同時期に開催中の「落石計画」で実施されるギャラリートークを現地会場の旧落石無線放送局(北海道根室市落石西 244-4 / 池田良ニスタジオ)から中継します。

日時：8月8日(土) 13:00－14:00頃

場所：目黒区美術館 1階ワークショップ室

参加方法、定員：当日先着順(30名程度)

スピーカー：井出創太郎(腐食銅版画家)

高浜利也(本展出品作家)

ゲスト：O JUN(画家)

ファシリテーター：当館学芸員

## ●大人のための美術カフェ：アーティストとの対談編

本展を担当した学芸員が、本展出品作家の高浜利也と、展覧会開催までの経緯や見どころなどをお話します。

日時：8月22日(土) 14:00－15:00

場所：目黒区美術館 1階ワークショップ室、展示室

参加方法、定員：当日先着順(30名程度)

この他にも、同時期開催ワークショップ2026夏「版画でいえあつめ」で展覧会に関連したワークショップなどを開催予定です。詳しくはホームページをご覧ください。

\*いずれの催事も当日有効の観覧券が必要です。

## 本展の問合せ先

目黒区美術館 展覧会担当(学芸) 山田 / 広報担当(事務) 丸

〒153-0063 東京都目黒区目黒 2-4-36 tel. 03-3714-1201(代) fax. 03-3715-9328  
e-mail: mmatoffice@mmat.jp https://www.mmat.jp

## 高浜利也 目黒でいえあつめ 広報用画像申込書

宛先：目黒区美術館 高浜利也 目黒でいえあつめ 担当者 宛

FAX：03-3715-9328 E-mail：mmatoffice@mmat.jp

- 本票に必要な事項をご記入のうえ、上記宛先まで FAX でお申し込みいただくか、メールにて本票と同内容の事項とご希望の図版番号をお知らせ下さい。掲載紙・誌を1部ご寄贈くださいますようお願い申し上げます。

お申し込み日	年 月 日		
御社名 ご担当者氏名			
住 所	〒		
TEL		FAX	
E-mail			
掲示媒体名 (雑誌名など)			
メディアの形態	<b>【紙媒体】</b> 新聞 / 雑誌 / ミニコミ誌 / フリーペーパー / その他 ( ) <b>【電子媒体】</b> テレビ / ラジオ / WEB サイト / 携帯サイト / その他 ( )		
発行・放送予定日	年 月 日		
ご希望の画像	図版番号 1～6 のご希望の図版番号をご記入ください { }	使用条件等 *写真画像への文字載せは不可です。 *原則、写真の画像加工(トリミング・色調整など)は不可。 但し、モノクロで使用の場合は、コントラスト、ガンマ値の 適宜調整を許可する場合があります。 *各作品のキャプション及びクレジットを必ず明記してください。	
連絡欄			

- お申し込み受け付け後、画像データ(JPEG)のダウンロード先を返信でお知らせいたします。  
 お手元の環境等によりダウンロードできない場合は別途ご連絡ください。
- 使用にあたっては、【広報用画像について】の内容をご了承いただくことが条件となります。  
 必ずご確認いただきますようお願いいたします。

### 【広報用画像について】

- ・画像データはメールにて送付いたします。
- ・画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
- ・データを第三者に渡すことは禁止いたします。
- ・使用后、データは破棄してください。
- ・展覧会の名称、期間、会場などの情報は分かりやすく掲載してください。
- ・画像への文字載せは不可です。
- ・画像使用の際は、キャプション、クレジットを明記してください。
- ・掲載誌(紙)は1部、当館担当者までお送りください。
- ・Web サイトは公開後に URL をお知らせください。
- ・当館が掲載内容を確認できるように、掲載前に校正をお送りください。

◎ 本展を紹介して下さる媒体には、展覧会の招待券  
 (5組10名様)を读者プレゼント用に提供いたします。  
 ご希望の方は下記にご記入ください。

读者プレゼント用招待券を [ 希望する ・ しない ]

< 広報用画像に関する問い合わせ先 >

目黒区美術館  
 TEL.03-3714-1201 / FAX.03-3715-9328  
 展覧会担当：(学芸) 山田  
 (広報・事務) 丸